

日々の挑戦と感謝

1月8日（水）に後期後半はじまりの会を実施しました。本年度の重点目標は、「日々の挑戦と感謝を習慣にする中央っ子」です。そこで、「挑戦」においては目標達成に向かうプロセスにおいて、「学び方を学んでいこう」と話しました。なぜなら挑戦には失敗がつきものだからです。失敗を受け入れ、乗り越えるために学び方を学ぶことで、日々の挑戦を少しずつ継続することができます。学び方とは、例えば計画を立てて後々修正したり、互いの強みを生かしたりすることです。また、「感謝」においては本校の学びを充実させるためにたくさんの地域や保護者の方々、6年生、身近にいる友達に「ありがとう」の気持ちを伝えようと話をしました。「感謝」は幸せの4つの因子（やってみよう・ありがとう・なんとかなる・ありのままに）の1つですが、感謝を通じて自分が周囲から支えられていることを実感し、自分自身を大切に思えるようになるという自己肯定感の向上に効果があるそうです。（参考：「ウェルビーイングな学校をつくる」中島晴美 著）6年生は3月14日、1～5年生は3月24日までの約2ヶ月半の間、本年度の振り返りや次年度に向けて準備をしていきます。

令和7年度に向けて

本校の学校通信「志免中央小だより2月号」にも1月17日に実施した予告なし避難訓練における子供たちの活動の様子を掲載する予定ですが、ちょうどこの日は阪神淡路大震災が起きて30年が経つ日でしたので、このときの教訓について子供たちに話を3つしました。その中の1つは、「隣人や地域の人々が互いに助け合うことで、多くの命が救われた」つまり、「共助」の大切さが広まったという話です。写真のように、高学年の子供は、下学年のお友達の背中を押して避難場所へ行こうとしていました。この様子を見て、私は「中央っ子は共助ができる」と分かりました。予告ありの避難訓練では「放送が聞こえるよう、静かに避難します。」と子供たちに伝えていますが、放送が聞えない環境では「（例えば）火事だよ、避難場所に行くよ。」と声をかけながら避難することが求められます。4年生社会科・5年生総合的な学習の時間で「自助・共助」について学びますが、避難訓練を通してさらに学びを深めていきたいと思っています。

またコロナ禍以前は5年生と幼稚園との交流をしていたそうですが、本年度、園の数を増やしパワーアップして交流を復活しました。5年担任と4つの幼稚園の先生方と話し合った結果、2クラスは幼稚園で、もう2クラスは本校で交流することとなりました。5年生に交流の感想を聞いてみると「園児が嬉しそうにしてくれると、私まで嬉しくなります。」と話してくれました。31日の令和7年度入学説明会で

